

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271300267		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホーム たみの里一長泉(1階)		
所在地	静岡県駿東郡長泉町桜堤2-10-10		
自己評価作成日	令和2年10月10日	評価結果市町村受理日	令和2年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyogyoCd=2271300267-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

桜堤の閑静な住宅街にあり、川沿いの桜並木から公園など、散歩には最適な立地は同じ町内のグループホームの中ではかなり恵まれているといえます。日常の活動としては運動指導員の有資格者や経験豊富な職員を中心としてリハビリ体操などを取り入れ体力維持に努めています。又、洗濯物量み等その人が出来る事をやっていただき個人個人が役割をもって暮らせるように支援させていただいております。尚、ハーモニカボランティアや近隣幼稚園の園児との相互の訪問など、地域との関わりの機会もあります。現在、入居者様の約半数(8名)が車椅子で生活していますが残存能力とご本人の嗜好を考えゴミ作りに携わることで生き甲斐を感じて戴けるように支援を継続しています。

管理者経験もある2名の計画作成担当者が着任して、管理者と3本の矢のように堅固な体制を築こうとしており、まずは「基本に忠実に」と月間目標を立て、毎月達成度を省みてPDCAサイクルにのせています。例えば「笑顔が優しい言葉がけをしよう」との目標はどこまで浸透しているか確認のうえ、「不十分」と判断したら次月にも引き続き取組み、本部の人や訪問の医師からも「雰囲気が変わったね」とまで言われるように変容して、利用者の表情も柔らかさが増えています。また陰洗をトイレの度におこなうことを努力義務として清潔を奨励し、排便はマイナス1日で話し合うことも定着しており、職員の意識の高まりが視えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の運営理念である『生き生き生きる』を基に職員一人一人が喜びをもって働くことで入居者様が生き生きと暮らすことが出来るように鋭意努力している。	理念は掲示して常に目に入るようにしており、定例会(月例会議)では大切なこととして管理者が話材にあげています。「生き生き生きる」支援は職員に浸透しており、医師と相談しつつ服薬を減らしてゆき、表情が豊かになったケース等、豊富です。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事への参加として、子供神輿の休憩所として提供してきたが、今年は中止している。区長等の運営推進会議への参加再開も見送りととなった。※いずれも新型コロナウイルスの為。	納涼祭をおこなったり、こども園との交流やボランティアの受入れも盛んでしたが、本年度はこども園との作品交換のみに留まっています。ふれあいが少なくなっているため、誕生日ケーキのデコレーションをはじめ、室内のミニイベントに一層力を入れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	①町立北こども園との交流は休止中であるが、節目での挨拶には伺っている。②南京玉簾・手品のボランティア団体との新たな交流も始まったが、現在は休止中。※いずれも新型コロナウイルスの為。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者様のご家族や、行政、医療機関代表を招いて行い、指摘された内容については改善に向けて会議の中で話し合いをしてきた。現在は面会自粛中の為、ご家族様とは電話やメール、玄関先などでの面談で意見を訊いている。	運営推進会議は隔月実施を順守していますが、4月からの偶数月は職員が数名で話し合い、2ヶ月分の資料をまとめて、それを長泉町に提出することで開催に代え、入居状況・事故報告・インシデント・環境整備の取組みと、細かに状況を報告しています。	次の2点を期待します。①条例下の取組みのため、メンバーには郵送で意見をもらい、特に行政はそのことを以て「出席」とする ②会議資料には平均介護や年齢など現状のデータを組み込む
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	①市町村担当窓口への書類等は直接提出し、地域運営推進会議の内容も適宜報告している。②施設内で生じた事象については極力、行政に都度、報告するようにしている。	長泉町では地域包括支援センターが町直轄なため、行政窓口に出向くと長寿介護課双方と顔を合わせることが出来、小さな問い合わせにも親切な対応があり、都度助けられています。また生活保護受給の利用者が1名おり、生活福祉課とも連携しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待や身体拘束について職員が会議の場で自発的に発表を行い、一人一人が正しく理解出来るまでテストも行っている。身体拘束廃止委員会を内部で隔月開催している。原則、昼間は施錠せず、夜間のみ防犯の為施錠。	身体的拘束等適正化委員会は運営推進会議と併催され、3ヶ月に1回でよいところを隔月開催しています。定例会の中でおこなう研修の時間で毎月模擬テスト等で学ぶ機会を設けており、向上への姿勢の高まりが職員の中に生まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議ではベテランのケアマネに交じって若手職員が資料を作成し、輪講を行い、自ら発表することで意識を高めている。日々のミニカンファレンスの中でも繰り返して、言葉かけの方法なども注意の上、不適切なケアがあればその場で指導するように心がけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括、社協とも連携し、権利擁護が必要な方には、その活用法についてご家族にも説明し、適切な支援が受けられるように助言している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は必ず契約の内容全てを出来るだけわかりやすく説明するようにして、ご理解していただいた上での契約を結ぶようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接利用者様及び家族に要望や生活課題事などを聴取の上会議等で討議し、課題解決と業務改善を図っている。	コロナ禍ですが、検温や消毒などを踏まえたうえで、玄関先などの家族とはコミュニケーションの場を確保しています。「ご家族様へのお手紙」にはナイスショットを捉えた写真が並び、家族からも「いいね」の声が届いています。	現状の情報の提供量と対応では不足を感じる家族が少なくないことがアンケートには表れています。対応方法を見直すことを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①ユニット会議での発言②毎日のブリーフィングでも報告と合わせて意見を求めている。③申し送りノートに職員の気づき等も記入している。④職員との個別面談も検討中。	ADLが下がり気味なことに着眼、「朝の支度に時間を要する」「しっかり手伝いたい」の職員発信により、来月から早番の時間を繰り上げてシフトを調整することとしています。現在、諸所改革的な取組みがありますが、職員もしっかりついていこうとしていることが観えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パートから常勤職員へ昇格する際の評価方法や昇給の基準等、を明確化。1年に一度、職員評価シートで自己評価を記入した上で管理者による公正な評価をし、個々の技量・努力や実績を把握するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①コロナ禍により外部研修への参加勧奨が困難な為、主に事業所内で毎月勉強会を開いている。※その際にはベテランと若手職員と一緒に輪講を行う事でリカレントに注力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	①地域包括主催の研修会にも参加したことがあったが、残念ながらコロナ禍の為休止中。介護職員の社会性向上の為には同業者は勿論、多職種や異業種との交流も必要ではないかと考えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	①居宅若しくは滞在先で入居前面談を2名以上で行い、事前の提供資料と合わせてインタビューを取った上でアセスメントを行っている。②入居後も傾聴対応を心掛け、主訴から課題解決に繋げるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	①本人、家族の双方に面談した上でそれぞれの課題を確認し、家族と個別に面談し、家族関係の改善や課題解決の方策について話し合うように努めている。②個別事案についてはその都度柔軟に対応するようしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	①本人・家族の話を個別に訊いた上、居宅支援事業者等とも連携し、アセスメントの上まず喫緊の解決可能な課題から取り組むようにしている。②グループホームでは提供可能な外部サービスは限られているが、主治医とも連携し、必要に応じて訪問マッサージ等も取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	サービス提供者・クライアントという相互の立場を認識した上で、時にはアドボケーターとして、時には共同生活体の一員として関係性を築くというのはいかなり高度な課題。一方で重度化した方の介護時などに於いてすら、互恵性を感得している職員は少なくない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	①コロナ禍で面会自粛中なので毎月“ご家族への手紙”で近況を報告している。居室担当制は職員の入・退職が重なり現在再編中。②家族から生活課題をヒアリングして、今後の家族関係の再構築の為の方策を模索している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①コロナ禍による面会自粛後もデジタル機器を利用して近況を家族に動画配信してきた。②BPSDが進行している方には回想法の手掛かりとして写真等の提供を求め、会話の糸口になっている。	在宅の頃から月1回水墨画教室に通っている人、馴染みの美容院のある人などいますが、コロナ禍で現在は全て中止となっています。母の日や誕生日の花は手渡しではなく宅配便となり、また他県の家族からの電話やお便りが増えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	①相性や状態を観察し、座席配置にも配慮の上、孤立する事が無いように支援している。②対人トラブルが惹起した場合には、速やかに介入し、仲裁するよう心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	守秘義務に配慮しつつ、必要としている方には可能な支援を継続出来るように務めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人に合った話し方を心掛けることで日常の中から一人一人の思いやニーズの把握に務め、共同生活の場を通じて自己実現が図られるように日々検証している。	「〇〇がたべたい」リクエストは大変多くて、一番はお寿司です。外食ができないのでテイクアウトにするほか、普段の食事メニューを差し替えることもあります。「役割をもってもらうこと」にも重きをおき、掃除機を一緒にかけたり、号令の係を担ってもらっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一度のインタビューでは把握出来ないことも多いので、サービス提供上必要だと思われる情報は家族に電話や面談などでお伺いしてケアプランに反映するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	①医療とも連携の上、病歴や生活歴等から心身状態、嗜好等を把握している。②ADLの低下が認められた場合でもストレンクスと残存能力に着目して本人にとって好ましい生活が継続出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	①日常的なケアやブリーフィング、毎月のユニット会議等で課題を検証し、本人と家族の意向を伺いながら、課題と目標を確認した上で個別計画書を作成している。②現在は諸般の事情で停滞しているが、月間のバイタルデータを入力し、エビデンスに基づいた健康状態の把握-モニタリングに努めてきた。	コロナ禍で介護計画書に組入れることが減ってはいますが、「コップに水を入れて渡す」等認知症の症状対応が具体的にサービス内容に記載されていて、安心が滲みます。またその人に関するケアポイントを1枚に集約して、実践しやすいようフォローシートも備えています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の各種記録等の記入と、朝・晩の申し送り、申し送りノートで情報共有を図り身体的変化や服薬介助に円滑に対応出来るように方策を講じてきた。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	①家族対応が困難な場合には受診に付き添い、外出に際しても送迎を行っている。②入居者様の突然のリクエストに応え、当日の夕食メニューを急遽変更して提供したりしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	①多年にわたり近隣の幼稚や地域のこども神輿と交流してきた。②今春、新たなボランティア団体との交流の機会を得たが、残念なことにコロナ禍で休止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則、入居前のかかりつけ医が入居後も施設医として訪問診療に当たっている。入居後もその他に外来受診を継続する場合にはケアプランにも記載し、受診継続を担保している。	月2回の訪問診療をおこなう3つの協力医から利用者は選んでいて、受診内容は「支援経過」に「申し送りノート」に残されています。立ち合いは、管理者と計画作成担当者2名で対応し、突然の通院介助もこの3名でおこない、連携を強めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	①週2回看護師が訪れ、医療的な処置を行い、介護職員にも可能な処置の方法を指導している。②排便状況を確認し、緩下剤などの処方量や変更についても細かく相談している。③急変時には直ちに担当看護師に連絡、救急搬送には迅速に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	①入院時にはアセスメントシートを家族の了解を得た上で病院側に提供し、病歴や服薬情報を詳しく伝え、適切な治療を受けられるように務めている。②コロナ禍により残念ながら退院前カンファレンスは中止されているが、退院時には各種サマリー及び診療情報の提供を求め、円滑に施設の生活に復帰出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しつつある入居者への対応は、ご家族やかかりつけの医師、訪問看護と相談の上、今後の方針を確認して支援している。	週2回来所の訪問看護師と24時間オンコールの医院があることは(他2医院は開院時間内のみ)心強く、看取りへの取組み体制を整えています。家族には「看取りと及び医療連携に関する指針」で契約時に説明をおこない、署名は重度化が見込まれたときとしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に対応出来るようにマニュアルを作成してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を行い、災害時の対応や手順等の訓練を行う。また、地区の防災訓練等にも参加する予定だったが、今回は見合わせざるを得なくなった。	5月は通報の情報伝達訓練を実施、今後は施設防災訓練(11月)、通常の防災訓練(3月)を予定しており、年間計画に組込むとともに、アルファ米のほか50*の米がローリングストックとしてあります。通報の体験は必ず「やったことのない人(特に新人)」を選んでいきます。	訓練では新人を優先的に体験させていますが、採用時のオリエンテーションで通報手順だけは説明しておくことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬されるべき方々であることを折に触れて職員に説諭しアドボケーターとしての自覚を促している。徐々にはあるが言葉遣いにも変化が観られてきた。又馴れ合いにならないように職員には都度注意喚起している。	新人にはマンツーマン指導とともにリーダーが率先垂範でお手本をみせ、現場で気づきがあればその場で注意喚起しています。職員間の「～さん」づけ徹底に始まり、「スピーチロックが減った」「丁寧な言葉遣いになった」と、目に見えてわかるほど前進が見られます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	①入浴後や朝の着替えの洋服など、可能な限りご自分で選んで頂くようにしている。 ②希望に即して日記をつけ一日の振り返りをしている方もいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の嗜好や生活リズムに配慮し施設の業務を優先しないように職員にはその都度注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の嗜好を確認し家族とも相談の上、化粧品、衣類を調達し、時には買い物に同行したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	リクエストメニューが週2回くらいあるので利用者の希望を聞き、とり入れている。調理に参加できる方は職員と一緒に調理したり食器の片付けなども一緒に行っている。	月1回のうなぎランチは利用者だけでなく、家族にも評判です。リクエストメニュー日を設け、「シラスを食べたい」には買いに走り、餃子好きに応え下田あんぱんと、喜ばれるものを提供しています。また、南瓜のプリン、芋蒸しパン、白玉ぜんざいと手作りおやつも盛んです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分補給量を毎回記録して体調管理に活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをして口腔ケアを行ない、夕食後は義歯の洗浄・保管や洗口液の使用など、徹底している。必要に応じて、歯科受診・往診も行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	①バイタルデータと伏せて排泄の内容、回数もデータとして分析し排便コントロールにも生かしている。②パッドをしているからと、リハビリパンツに失禁しても構わないという対処はしないようにしている。	陰洗をトイレの度におこなうことを努力義務として清潔を奨励し、規則正しい排泄に向かうよう工夫しています。排便マイナス1日で話し合うことが定着し、2日では大騒ぎになるほど職員の意識も高く、トイレ時間の統計をとってケアポイントを把握しつつあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	①排泄の時間、回数もデータ化して分析し医療と連携しながら服薬調整等し早めの対応をしている。②体操や歩行運動の時間を設けたり腹部マッサージをして予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	①入浴日は一人一人決まっていなが衛生状態の確認の上週2回以上を目安に実施し散る。②ADLが低下し浴槽に入れられない方はシャワー浴時にヒートショックを起こさない様に特に配慮している。※足浴機器の導入を検討中	週2、3回を目安にしており、利用者本人の拒否や「もっと回数を増やしたい」はありませんが、同性介助や時間帯には要望があり、応えています。体調によっては2人介助となることがあっても、湯船に浸かる喜びを味わってもらえるよう努めています。	利用者からは意見はないようですが、入浴回数を心配する家族もいるため、「ご家族様へのお手紙」に記録や状況(汗をかいたので週1回増やした等)を加えることも検討ください。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	医療的な制約が無い限り日中は施設内の活動への参加を出来るだけ勧奨しているが強要することはない。午睡の時間を設けているが同様に午睡を職員都合で強要しないようにその都度注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに、薬情報をファイリングしている。また、薬の変更時には必ず申し送りノートに記入し、職員全員が確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や生活歴を理解する為に日頃から本人と家族にお伺いして、楽しみを通して生活に潤いがもてるように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の散歩外出は出来る限り職員が同行し、買い物や家族との外出も個別支援計画として取り入れてきた。※現在はコロナ禍により自粛検討中。	長閑な環境に甘んじて近所への散歩は継続しています。コロナ禍前には恒例の外出行事として初詣、花見、紅葉狩り、いちご狩りがありましたが、初詣を最後に中止となっています。代替としてイチゴをめいっぱい購入して、皆でほおぼってもらった日もあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①本人が希望するものを購入して立替払いで支援している。※金銭を日常的に所持することはないが本人が希望する物があれば一緒に買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の都合を確認の上、電話で話をしたり手紙のやり取りを続けている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①リビングには畳スペースもありゆったりとした雰囲気を醸成している。②四季折々の共同制作の作品等を飾りパブリックスペースを共に作り上げている。③オープンキッチンで食事の支度や匂いなども伝わるようになっている。④空調管理・湿度管理・除菌には特に注意している。	共用空間のハロウィンの装飾は終焉を迎え、早くもクリスマスの準備が始まっています。感染対策として毎朝居室、リビングの窓を30分ほど開け、日中も好天日はオープンにするほか、触れる箇所はすべて(手すり、車いすの車輪など)アルコール消毒をおこなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は、利用者の席順を決めず、気の合う方達がソファや畳スペースを活用して好きな場所で寛いで過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活の継続の場として馴染みのある調度品や写真を居室に配置している。ホームでの写真、本人の作品を飾っている。	お位牌を持ち込み、毎日職員が手伝ってお水を供えている利用者もいます。大半の利用者がリビングで過ごす中、2名は独りも好きとして、横になってテレビを観たり、メモや写真整理をして過ごす時間帯を持っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	①パブリック・スペース(浴槽、トイレ、廊下)に手すりを付け生活動線を優先した上で職員の介護動線を適宜調整している。②車椅子対応の方が万一ベッドから転落した場合に備え室内にも緩衝材のカーペットを敷き詰めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271300267		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホーム たみの里一長泉(2階)		
所在地	静岡県駿東郡長泉町桜堤2-10-10		
自己評価作成日	令和2年10月10日	評価結果市町村受理日	令和2年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2271300267-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

桜堤の閑静な住宅街にあり、川沿いの桜並木から公園など、散歩には最適な立地は同じ町内のグループホームの中ではかなり恵まれているといえます。日常の活動としては運動指導員の有資格者や経験豊富な職員を中心としてリハビリ体操などを取り入れ体力維持に努めています。又、洗濯物置み等その人が出来る事をやっていただき個人個人が役割をもって暮らせるように支援させていただいております。尚、ハーモニカボランティアや近隣幼稚園の園児との相互の訪問など、地域との関わりの機会もあります。現在、入居者様の約半数(8名)が車椅子で生活していますが残存能力とご本人の嗜好を考えゴミ作りに携わることで生き甲斐を感じて戴けるように支援を継続しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者経験もある2名の計画作成担当者が着任して、管理者と3本の矢のように堅固な体制を築こうとしており、まずは「基本に忠実に」と月間目標を立て、毎月達成度を省みてPDCAサイクルにのせています。例えば「笑顔で優しい言葉がけをしよう」との目標はどこまで浸透しているか確認のうえ、「不十分」と判断したら次月にも引き続き取組み、本部の人や訪問の医師からも「雰囲気が変わったね」とまで言われるように変容していて、利用者の表情も柔らかさが増えています。また陰洗をトイレの度におこなうことを努力義務として清潔を奨励し、排便はマイナス1日で話し合うことも定着しており、職員の意識の高まりが視えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の運営理念である『生き生き生きる』を基に職員一人一人が喜びをもって働くことで入居者が生き生きと暮らすことが出来るように鋭意努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加として、子供神輿の休憩所として提供してきたが、今年は中止している。区長等の運営推進会議への参加再開も見送りととなった。※いずれも新型コロナウイルスの為。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	①町立北子ども園との交流は休止中であるが、節目での挨拶には伺っている。②南京玉簾・手品のボランティア団体との新たな交流も始まったが、現在は休止中。※いずれも新型コロナウイルスの為。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者様のご家族や、行政、医療機関代表を招いて行い、指摘された内容については改善に向けて会議の中で話し合いをしてきた。現在は面会自粛中の為、ご家族様とは電話やメール、玄関先などでの面談で意見を訊いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	①市町村担当窓口への書類等は直接提出し、地域運営推進会議の内容も適宜報告している。②施設内で生じた事象については極力、行政に都度、報告するようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待や身体拘束について職員が会議の場で自発的に発表を行い、一人一人が正しく理解出来るまでテストも行っている。身体拘束廃止委員会を内部で隔月開催している。原則、昼間は施錠せず、夜間のみ防犯の為施錠。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議ではベテランのケアマネに交じって若手職員が資料を作成し、輪講を行い、自ら発表することで意識を高めている。日々のミニカンファレンスの中でも繰り返し、言葉かけの方法なども注意の上、不適切なケアがあればその場で指導するように心がけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括、社協とも連携し、権利擁護が必要な方には、その活用法についてご家族にも説明し、適切な支援が受けられるように助言している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は必ず契約の内容全てを出来るだけわかりやすく説明するようにして、ご理解していただいた上での契約を結ぶようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接利用者様及び家族に要望や生活課題事などを聴取の上会議等で討議し、課題解決と業務改善を図っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①ユニット会議での発言②毎日のブリーフィングでも報告と合わせて意見を求めている。 ③申し送りノートに職員の気づき等も記入している。 ④職員との個別面談も検討中。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パートから常勤職員へ昇格する際の評価方法や昇給の基準等、を明確化。1年に一度、職員評価シートで自己評価を記入した上で管理者による公正な評価をし、個々の技量・努力や実績を把握するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①コロナ禍により外部研修への参加勧奨が困難な為、主に事業所内で毎月勉強会を開いている。※その際にはベテランと若手職員と一緒に輪講を行う事でリカレントに注力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	①地域包括主催の研修会にも参加したことがあったが、残念ながらコロナ禍の為休止中。介護職員の社会性向上の為には同業者は勿論、多職種や異業種との交流も必要ではないかと考えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	①居宅若しくは滞在先で入居前面談を2名以上で行い、事前の提供資料と合わせてインタビューを取った上でアセスメントを行っている。②入居後も傾聴対応を心掛け、主訴から課題解決に繋げるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	①本人、家族の双方に面談した上でそれぞれの課題を確認し、家族と個別に面談し、家族関係の改善や課題解決の方策について話し合うように努めている。②個別事案についてはその都度柔軟に対応するようしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	①本人・家族の話を個別に訊いた上、居宅支援事業者等とも連携し、アセスメントの上まず喫緊の解決可能な課題から取り組むようにしている。②グループホームでは提供可能な外部サービスは限られているが、主治医とも連携し、必要に応じて訪問マッサージ等も取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	サービス提供者・クライアントという相互の立場を認識した上で、時にはアドボケーターとして、時には共同生活体の一員として関係性を築くというのはいかなり高度な課題。一方で重度化した方の介護時などに於いてすら、互恵性を感得している職員は少なくない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	①コロナ禍で面会自粛中なので毎月“ご家族への手紙”で近況を報告している。居室担当制は職員の入・退職が重なり現在再編中。②家族から生活課題をヒアリングして、今後の家族関係の再構築の為の方策を模索している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①コロナ禍による面会自粛後もデジタル機器を利用して近況を家族に動画配信してきた。②BPSDが進行している方には回想法の手掛かりとして写真等の提供を求め、会話の糸口になっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	①相性や状態を観察し、座席配置にも配慮の上、孤立する事が無いように支援している。②対人トラブルが惹起した場合には、速やかに介入し、仲裁するよう心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	守秘義務に配慮しつつ、必要としている方には可能な支援を継続出来るように務めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人に合った話し方を心掛けることで日常の中から一人一人の思いやニーズの把握に務め、共同生活の場を通じて自己実現が図られるように日々検証している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一度のインテークでは把握出来ないことも多いので、サービス提供上必要だと思われる情報は家族に電話や面談などでお伺いしてケアプランに反映するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	①医療とも連携の上、病歴や生活歴等から心身状態、嗜好等を把握している。②ADLの低下が認められた場合でもストレングスと残存能力に着目して本人にとって好ましい生活が継続出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	①日常的なケアやブリーフィング、毎月のユニット会議等で課題を検証し、本人と家族の意向を伺いながら、課題と目標を確認した上で個別計画書を作成している。②現在は諸般の事情で停滞しているが、月間のバイタルデータを入力し、エビデンスに基づいた健康状態の把握-モニタリングに努めてきた。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の各種記録等の記入と、朝・晩の申し送り、申し送りノートで情報共有を図り身体的変化や服薬介助に円滑に対応出来るように方策を講じてきた。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	①家族対応が困難な場合には受診に付き添い、外出に際しても送迎を行っている ②入居者様の突然のリクエストに応え、当日の夕食メニューを急遽変更して提供したりしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	①多年にわたり近隣の幼稚や地域のこども神輿と交流してきた。②今春、新たなボランティア団体との交流の機会を得たが、残念なことにコロナ禍で休止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則、入居前のかかりつけ医が入居後も施設医として訪問診療に当たっている。入居後もその他に外来受診を継続する場合にはケアプランにも記載し、受診継続を担保している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	①週2回看護師が訪れ、医療的な処置を行い、介護職員にも可能な処置の方法を指導している。②排便状況を確認し、緩下剤などの処方量や変更についても細かく相談している。③急変時には直ちに担当看護師に連絡、救急搬送には迅速に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	①入院時にはアセスメントシートを家族の了解を得た上で病院側に提供し、病歴や服薬情報を詳しく伝え、適切な治療を受けられるように務めている。②コロナ禍により残念ながら退院前カンファレンスは中止されているが、退院時には各種サマリー及び診療情報の提供を求め、円滑に施設の生活に復帰出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しつつある入居者への対応は、ご家族やかかりつけの医師、訪問看護と相談の上、今後の方針を確認して支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に対応出来るようにマニュアルを作成してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を行い、災害時の対応や手順等の訓練を行う。また、地区の防災訓練等にも参加予定だったが、今回は見合わせざるを得なくなった。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬されるべき方々であることを折に触れて職員に説諭しアドボケーターとしての自覚を促している。徐々にはあるが言葉遣いにも変化が観られてきた。又馴れ合いにならないように職員には都度注意喚起している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	①入浴後や朝の着替えの洋服など、可能な限りご自分で選んで頂くようにしている。 ②希望に即して日記をつけ一日の振り返りをしている方もいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の嗜好や生活リズムに配慮し施設の業務を優先しないように職員にはその都度注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の嗜好を確認し家族とも相談の上、化粧品、衣類を調達し、時には買い物に同行したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	リクエストメニューが週2回くらいあるので利用者の希望を聞き、とり入れている。調理に参加できる方は職員と一緒に調理したり食器の片付けなども一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分補給量を毎回記録して体調管理に活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをして口腔ケアを行ない、夕食後は義歯の洗浄・保管や洗口液の使用など、徹底している。必要に応じて、歯科受診・往診も行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	①バイタルデータと伏せて排泄の内容、回数もデータとして分析し排便コントロールにも生かしている。②パッドをしているからと、リハビリパンツに失禁しても構わないという対処はしないようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	①排泄の時間、回数もデータ化して分析し医療と連携しながら服薬調整等し早めの対応をしている。②体操や歩行運動の時間を設けたり腹部マッサージをして予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	①入浴日は一人一人決まっていないが衛生状態の確認の上週2回以上を目安に実施し散る。②ADLが低下し浴槽に入れない方はシャワー浴時にヒートショックを起こさない様に特に配慮している。※足浴機器の導入を検討中		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	医療的な制約が無い限り日中は施設内の活動への参加を出来るだけ勧奨しているが強要することはない。午睡の時間を設けているが同様に午睡を職員都合で強要しないようにその都度注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに、薬情報をファイリングしている。また、薬の変更時には必ず申し送りノートに記入し、職員全員が確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や生活歴を理解する為に日頃から本人と家族にお伺いして、楽しみを通して生活に潤いがもてるように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の散歩外出は出来る限り職員が同行し、買い物や家族との外出も個別支援計画として取り入れてきた。※現在はコロナ禍により自粛検討中。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①本人が希望するものを購入して立替払いで支援している。※金銭を日常的に所持することは無いが本人が希望する物があれば一緒に買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の都合を確認の上、電話で話したり手紙のやり取りを続けている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①リビングには畳スペースもありゆったりとした雰囲気を醸成している。②四季折々の共同制作の作品等を飾りパブリックスペースを共に作り上げている。③オープンキッチンで食事の支度や匂いなども伝わるようになっている。④空調管理・湿度管理・除菌には特に注意している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は、利用者の席順を決めず、気の合う方達がソファや畳スペースを活用して好きな場所で寛いで過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活の継続の場として馴染みのある調度品や写真を居室に配置している。ホームでの写真、本人の作品を飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	①パブリック・スペース(浴槽、トイレ、廊下)に手すりを付け生活動線を優先した上で職員の介護動線を適宜調整している。②車椅子対応の方が万一ベッドから転落した場合に備え室内にも緩衝材のカーペットを敷き詰めている。		